

「本当の自立支援は家族と共に！」～バスツアー企画から見えてきたこと～

あい介護老人保健施設 フロア部デイケア科 作業療法士 大原 優

【はじめに】 デイケア（以下 DC）では毎年介護保険外で自立支援を目的としたバスツアーを実施している。今年で4回目となり今回家族主体型を目的に企画段階から家族と共に取り組んだ。家族主体にこだわる理由として、本来のDCの役割である「自立支援」をより効果的に繋げていく為にはまず家族を動かす事が必要であると感じたからである。バスツアー企画から家族の変化を通し、DCの役割の一つである「自立支援についてやるべき事」が見えてきた為報告する。

【今回の取り組み】 参加者：32名（利用者21名、家族11名、職員2名、ボラ12名）、平均要介護度：要介護2
前回は企画全体を施設側が担当し本人・家族が「企画者対参加者」という意識が強く全体的に受け身であった。今回は家族主体へと繋げていく為新たに以下①～④の内容で取り組んだ。

- ①企画から家族の参加を促し、検討の場で家族に投げかける形で進めていく工夫をした。
- ②バスツアーだけでなく通常のDC家族会でも意識的に家族に役割を与えるよう取り組んだ。
- ③行き先絞込みを家族会の場で実施した。 ④バスツアー終了後の会計を家族に依頼した。

【参加後のアンケート結果】 回答率：7組/10組（家族対象に実施）

- 1) 企画参加について：「良かった」6名、「次回は参加したい」1名
- 2) 企画参加者の意見：「家族の発言・意見がツアー内容に反映でき家族主体に近付いた」2名、「家族同士の交流機会となった」2名、「事前に外出の不安を解消できた」1名
- 3) ツアー前後の変化：①以前から外出はしている為生活に変化なし⇒一泊旅行等の希望が聞かれ、楽しみの場と捉えている事が分かった。
②外出は自信がなく殆どしていない⇒連れ出したいが自信がない為受け身で、バスツアーが家族での外出機会となっていることが分かった。
③外出回数・行き先変化あり⇒ツアーを経験の場として利用し企画から積極的に参加していた。その場で地図を描いて示す等中心となっていた。また車椅子トイレの場所やEV確認の下見を行い、その情報を皆に伝達していた。ツアー終了後には家族だけで積極的に練習して経験を増やそうとし日常での変化にも繋がった。今後は外出範囲を広げたいなど前向きな声が聞かれた。

【考察】 去年と比較し、家族が企画から参加しツアー全体を一緒に作り上げていく事が出来た。結果3)③「外出回数・行き先に変化があった」理由として、企画参加により外出前の不安軽減、安心感に繋がり、ツアー自体が経験の場となったからだと考える。今回のように家族に機会・役割を与える事で自分達が直面する課題や問題解決に向き合う機会となり、自ら学ぼう・知ろうという姿勢に繋がった。また同じ境遇の方との仲間意識が芽生え情報を共有する等家族自身がアドバイザーとなり、ピアカウンセリングとして企画の場が活かされたと考える。

DCの活動や関わりは家族・本人にとって一つのきっかけにすぎない。しかしバスツアーでの経験からきっかけ作りの大切さを感じた。家族が問題解決の経験を積み重ねていく事で自信に繋がり、その結果地域へ安心して利用者と外出する事の実現に繋がるのではないかと考える。

【まとめ】 利用者の自立支援は本人へのアプローチに留まりがちであるが今回の結果から本人だけでなく家族に対してもアプローチしていく事が「本当の自立支援」に繋がると感じた。「心が動く事で体が動く」「体が動く事で実現に繋がる」、この事をバスツアーを通し再確認出来た。家族の不安や諦めの気持ちを前向きに変えるきっかけを作る事がとても重要であると考え。DCでの活動を通し家族と一緒に企画や学ぶ機会、家族交流の場を提供し続ける事が利用者にとって「地域でいつまでも自分らしく生活する」事に繋がるのではないかと考える。今後もDCが架け橋となり家族を動かしながら利用者の自立支援に向けてのアプローチを行っていきたいと考える。